

戦争と平和

柴田 紗予子

平和と言うと、戦争の事が思い浮かんでくる。それくらい平和と戦争はつながりがある。戦争なくしては平和は語れない。

私は、小・中学校の修学旅行で、広島・長崎へ行った。あの時、資料館で見た写真は、一生忘れないと思う。黒こげでボロボロになって抱き合って死んでいた親子だった。なんであんなになってしまったのか。原爆の威力の想像がつかなかった。なんでこんな目に会わなくちゃいけないのか。あの子の親はあの子が育っていくのを楽しみにしていただろう。あの子は、まだ何もよくわからない

まま、死んでいったんだろう。私は、あの写真を見て自分達が戦争にあっていたら、という事を考えていた。何も失うのはいやだと思った。家族も親せきも友達も先生も学校も。何もかも失いたくないと思った。そして今、私は平和の中に生きて、幸せなんだ、とも思った。

私達が大切な全てを失う事のない、平和な世界を守っていくには、どうしたらいいのだろう。それは、私のような戦争に会っていない若い世代の人達が、戦争を人事だと思わずにいる事。自分と戦争と平和のつながりを見つける事。こういう事が

必要なんじゃないかと思う。後、私達の次の世代に、私達が今まで学んできた、戦争と平和や、これからも学んでゆく戦争と平和を、ちゃんと伝えるべきだ。

五十年後は、科学や医学や何もかもが、今よりも進んでいるだろう。その進んだ科学や医学を戦争に使わないで欲しい。今から五十年前の人々がそうしたように、あんな悲惨な事をおこす為だけの科学や医学じゃなく、戦争をおこさない、おこす必要のない世界を作っていく為に、より進んだ科学や医学を使って欲しい。

最後に、戦争をなくし平和を守る為には科学などの最先端の技術も必要だ。けど、やはり人間に一番必要なのは心だと思う。私達は、数々の戦争体験の中から心を学び、またそ